

# 断熱・省エネ住宅は「健康」ウリに

## 家で暮らすだけで長生き？

住宅の断熱化が進み省エネ性能が高まりつつあるが、断熱化のメリットはそれだけではない。居住者の健康や長寿命にもつながる。そのことを医学的データで裏づけ、地域から国全体への取り組みにしようとする動きが本格化しつつある。一方で産学で研究が進むスマートハウスも「健康」がウリの一つになってきた。

「住宅環境および住まい方の改善で健康・長寿が推進できる。今後、国とも連携してこの動きを広げるにあたり、まずは」

各地域の工務店、建築資材供給者による協議会を立ち上げてほしい」



(一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議が主催した「協議会設立呼びかけセミナー」(1月29日、東京・文京区)

天板とシンクのシーム溶接は熟練技術を要する



### 手作業へ

加工とコーティングをワークトップに標準採用してリニューアルしたものだ。

訪れた1月下旬、工場は午前8時から午後5時の稼働で1日に247台のカウンターを生産していた。このうち、

その大型プレス機4台を順に使って1枚のエンボス加工済ステンレス板から深絞りシンクをつくる。1台目のプレスで一気に8割の深さを

うにするため、2台目で残り2割の深さを出し、3台目でシンク周りの段差(フランジ)をつくる。最後の4台目は周辺の不要部分を抜き取るため

生産工程の自動化が進むが、意外にも手作業が幅を利かせている。凹口やシンク位置などで個別注文に対応しているためだ。これが今や国内で2社のみとなった専業メーカーのこだわりなのだろう。

工学部の伊香賀俊治教授は室温10℃低下に伴い、血圧が約4.3mmHg上昇するというデータを紹介。「高齢になるほど寒さによる血圧上昇が見られた。若いときは

大きな問題になりにくいが、(断熱を配慮せず)住宅を建てて数年経つたときにその影響は自身に降りかかる」と指摘した。

同法人は3年後をめ

に、各地域協議会がスマートハウス住宅の担い手として国の事業に

産学で進むZEH

家庭部門の省エネ対策として「ネット・ゼロ」

議の上原裕之理事長は1月29日に都内で開いたセミナーで、工務店や資材供給会社などから集まった約200人に訴えた。同法人が危惧するのは、日本が超高齢化社会へ向かうなかで医療費が2025年には10年の約2倍(68兆円)に、介護費は同約3倍(24兆円)に膨れ上がるという予測だ。そこで住宅内での低温リスクに注目した。「住宅を断熱化することは、省エネルギー性を向上するだけでなく、社会全体で健康な人を増やし、病気や介護の予防につながる可能性が高いことがわかってきた」と上原理事長は話す。

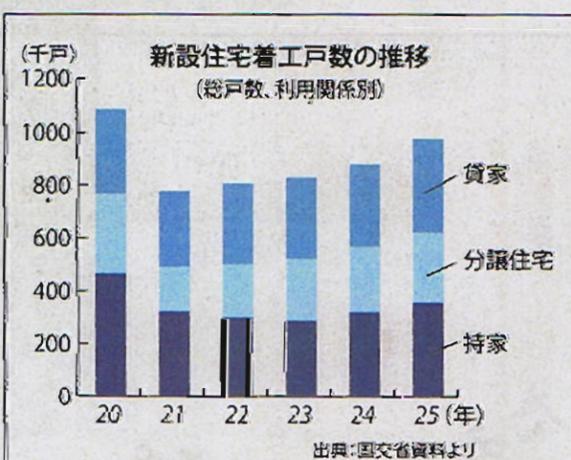


首都圏の5大学が提案するZEH(1月31日、東京・有明の特設会場)

国土交通省の発表によると、平成25年の新設住宅着工戸数は98万25戸で前年比11.0%増加。4年連続の増加となった。利用関係別では持家は35万4772戸で前年比13.9%増、4年連続の増加。貸家は35万6263戸で同11.8%増、2年連続の増加。分譲住宅は26万3931戸で同6.9%増、4年連続の増加。分譲の内訳はマンションが12万7599戸で同3.6%増、一戸建住宅は13万4888戸で同10.0%増。マンション・一戸建とも4年連続の増加だった。

### 平成25年の新設住宅着工統計

#### 98万25戸、前年比11%増加



出典:国交省資料より

# CORONA

「大気の熱」「大地の熱」  
「コロナのヒートポンプ」  
快適で経済  
暮らしを豊かに

1年を通して温度が安定している「地中熱」を利用した省エネで快適なエアコンです。

お薦めいたし「地中熱」を利用した省エネエアコンです。

1台4役!!  
**水**  
加湿  
ナノフィール